

# 2023 年度 学校関係者評価委員会 評価表

学校法人 21 世紀アカデミア  
専門学校東京デザイナー・アカデミー

2024 年 6 月 10 日作成

## 1. 学校の教育目標

### ●業界で活躍できる人材の育成・輩出

『ゼロからプロになる』ための『人間力』を引き出す

### ●東京デザイナー学院が求める人物像（アドミッションポリシー）

感動力…感受性を豊かにし、物事に感動できる力を持つ人。感動を伝えることができる人。

チャレンジ…何事に対しても前向きな好奇心を持ち、まずやってみようという気持ちを持つ人

自分らしさ…自分とはどんな人間か、他者とはどこが違うのかを考え、自分らしさをあらゆることに活かせる人

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ●就職

本年度の実績として

- ・ 就職希望率 72.4%
- ・ 就職決定率 90.4%

前年度実績を踏まえた目標

- ・ 就職希望率 95.0%
- ・ 就職決定率 100%

### ●進級継続

本年度実績として

- ・ 1年次前期から後期へ 95.9%
- ・ 2年次前期から後期へ 94.8%

前年度実績を踏まえた目標

- ・ 1年次前期から後期へ 95%
- ・ 2年次前期から後期へ 90%

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

#### 1) 課題

特筆すべき点なし

#### 2) 今後の改善方策

特筆すべき点なし

#### 3) 特記事項

特筆すべき点なし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

1) 課題

特筆すべき点なし

2) 今後の改善方策

特筆すべき点なし

3) 特記事項

特筆すべき点なし

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	<b>3</b>	2
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	<b>3</b>	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	<b>3</b>	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	<b>3</b>	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	<b>4</b>	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	<b>3</b>	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	<b>3</b>	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	<b>3</b>	2	1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	<b>3</b>	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	<b>3</b>	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	<b>3</b>	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	<b>3</b>	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	<b>2</b>	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	<b>2</b>	1

## 1) 課題

- ①就職ができているので問題なさそうに見えるが、社会・業界のニーズと、提供している教育内容に乖離が生まれているのではないかと。  
建築業界では、大工や設備設計、施工管理など、人材が足りていない職種は沢山ある。本校の教育方針は「デザイナーを育てる」であるが、その一方で施工管理として就職している学生も多にいる。そういったデザイナー以外として就職する学生に対して、どういった教育を提供していくべきか（佐々木）
- ②ここ3年、毎年学校長が交代し、建築デザイン学科の学科長もこの6年間で3回変わっている。そうなってくると、なかなか長期的な計画や、見通しも立てにくいのではないかと考えるが、何か理由や原因があるのか（佐々木）
- ③自己点検・自己評価報告書で毎回「教職員の研修が不十分」という評価が出てくるが、これは何が要因なのか。大学等では基本的に「教える能力のある人」に非常勤講師を依頼しているので、そういった講師に対して『指導力向上の研修を行う』という発想がない（佐々木）

## 2) 今後の改善方策

- ①様々な事情でデザイン関連外の仕事に就職をする学生に対し、そういった企業への就職斡旋は外部エージェント等へのリファーも含めて行ってきた。一方で多様化する進路のニーズに対して、どのような教育的対応をしていくかについては、今後の課題とする（有賀）
- ②学校長の交代は、個々の事情があり、それがたまたま結果として3年続いたという経緯がある。たとえ学校長が交代したとしても、組織としてフォローしていく体制ができている（有賀）
- ③大学ではサバティカル休暇等を取り入れているケースもあるが、そういったことも検討してはどうか（佐々木）

## 3) 特記事項

特筆すべき点なし

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4    ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2    不適切・・・1			
	・就職率の向上がはかられているか	4	3	2
・資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

1) 課題

- ①就職率（進路決定率）はどこの学校も公開しているが、本当に大切なのは就職してからの離職率。就職したあと、どれくらいの学生が離職しているのかを把握できている学校は少ない。特に採用する企業側にとっては、最も知りたい情報である（佐々木）
- ②グラフィックデザイン業界だと、最初の就職先を1～2年で離職し、転職して次のステップに進んでいく人も多い。そういった意味では、卒業生のコミュニティを最も必要としている業界でもある。業界としては圧倒的にフリーランスで働く人が多い業界でもあり、就職はそのための下積み期間として考えられていることが多い。そうなってくると、その下積み期間にあたる最初の就職先での経験が重要になってくる（藤原）
- ③CG業界だとCGモデラーは需要に対して供給過多になっており、就職が厳しくなっている。その一方でCGアニメーターなど希望者の少ない職種だと、内定獲得しやすい。またゲーム業界とアニメ業界でも状況は変わっており、前者は大手メーカーが大型案件の受注を控えていることから、中小のディベロッパーまで仕事が回ってこないような状況になっている。その結果、ゲーム会社は各社人材の採用控えをしている。一方で、ゲーム事業で培った技術を活かし、医療・建築・自動車分野の仕事にシフトしてきている企業も増えている。（宮内）

2) 今後の改善方策

- ①離職率に限らず就職した学生について、学校は就職先の企業にその後の状況を確認する義務がある。そこでヒアリングしたデータを積み重ね、カリキュラム等に反映していかないと、教育機関としての成長は望めない。勇気をもって情報収集を始めるべき（佐々木）

- ②3年後、5年後、10年後に果たして、卒業生がその仕事に就いているのか？その業界にいるのか？どんなことをしているのか？そのあたりのデータの蓄積ができれば、学生にとっても、入学検討者にとっても安心材料になるのではないか（藤原）
- ③業界の最新情報として学内で共有する（有賀）

### 3) 特記事項

- ①年に1度で良いので、卒業生全員に近況を確認するような取り組み（メール配信、ネット上のフォームへの入力など）を行ってはどうか。非常勤講師に対して、半年に1度程度卒業生の近況についての情報提供の依頼をするのも一つの方法である（佐々木）

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4    ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2    不適切・・・1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1

1) 課題

- ①自分で動ける学生、手取り足取り伴走してあげないと動き出せない学生という、学生の二極化が顕著とのことだが、一方で付きっきりで指導した方が伸びる学生もいれば、見守っていた方が伸びる学生もいる（佐々木）
- ②在籍者数に対して、求職者の人数が少ない学科があることが気になるが、こういった状況なのか（佐々木）
- ③ゲーム業界を目指すのであれば、イラストのスキルしかない、どうしても厳しいという話は他の学校でも聞く。Live2D、3DCG、UI等、そこにプラスアルファのスキルがあれば、状況は大きく変わるのだが、そういったスキルが習得できる授業は設けられているのか（宮内）
- ④家庭環境等に問題を抱えた学生が増えているという報告もあったが、それに対して具体的にどうやって見極めて対処できるのか。その問題に対して高校の先生とコミュニケーションは取れているのか（藤原）

## 2) 今後の改善方策

- ①今の学生は選択肢を与えられれば、その中から選択をすることはできるが、選択肢がないと自分では考えられない者が多い。学生のタイプ別に自立型の学生の成功例と、付き添い型の学生の成功例を事例として紹介し、どちらのサポートを希望するのか、本人に選択させてはどうか（佐々木）
- ②イラストレーション学科、コミックイラスト学科、マンガ学科の学生は、フリーランスとして独り立ちしていくことが前提なので、そもそも「求職」という意識が弱い気がする。一方で、それ以外の学科はいったん就職して、まずは社会性を身に付けてから、そのまま企業で働くなり、フリーランスになるなり、自分で選択していくので「求職」に対する基準が異なっていると考えた方が良いのではないかと（藤原）
- ③Live2Dについては、既に選択授業で設定しているが、UIについてはそれだけで単体の科目は設定されていない。選択授業に設定すると学生からの需要の問題もあるので、必修となる授業にUIの要素を取り入れる形になる（有賀）
- ④メンタル面においては、保護者も含めてスクールカウンセラーにカウンセリングを行っていただく等の対応を行っている。経済面においては、事務局が中心となって奨学金の紹介を行い、学費の分納計画の相談にのる等の対応を行っている（有賀）
- ④高校の先生は、それぞれの生徒の家庭環境等も含めた情報を持っていると思うので、そういったところで連携が取れるように働きかけを行ってはどうか（藤原）

## 3) 特記事項

- ④家庭内トラブルにおいては、学校で関与できる限界があると思う。学校として、どこまで関与するかの線引きも重要（藤原）

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

1) 課題

①校舎や設備面の問題については、非常勤講師の耳には入ってこないもので、特に述べることはない。ただ、一般的に校舎の老朽化は学生や保護者にとって大きな問題なので、最低限のフォローは必要である（佐々木）

2) 今後の改善方策

①積年の懸案事項だった、全校舎のトイレの修繕・改修が本年度を以て完了した。予算的に年度内で全てを完了することが困難な施設・設備系の整備は、複数年度に渡る計画を立案したうえで、優先順位を付けて対応していく（有賀）

3) 特記事項

特筆すべき点なし

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

1) 課題

特筆すべき点なし

2) 今後の改善方策

特筆すべき点なし

3) 特記事項

特筆すべき点なし

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

1) 課題

特筆すべき点なし

2) 今後の改善方策

特筆すべき点なし

3) 特記事項

特筆すべき点なし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

1) 課題

特筆すべき点なし

2) 今後の改善方策

特筆すべき点なし

3) 特記事項

特筆すべき点なし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

1) 課題

特筆すべき点なし

2) 今後の改善方策

特筆すべき点なし

3) 特記事項

特筆すべき点なし

(1 1) 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

1) 課題

特筆すべき点なし

2) 今後の改善方策

特筆すべき点なし

3) 特記事項

特筆すべき点なし

#### 4, 総括

##### 1) 卒業生に対して

学校として卒業生の動向を把握する方法を具体的に考えた方が良い。これだけインターネットが浸透しているのだから、SNS で卒業生に呼びかけて HP 内のフォームに誘導し、そこから情報を収集することもできるのではないか。非常勤講師に対して、年に1度、半年に1度、卒業生に関する情報提供を呼び掛けるような働きかけも有効だと思われる。その結果、卒業後3年以内の離職率や、5年後、10年後にその仕事に就いているのか、業界にいるのか、どんなことをやっているのかといった、データの積み重ねがあれば学校としての信頼度も上がるだろう。

##### 2) 高校との連携について

メンタル面や、家庭環境面で問題を抱えている学生が増えているのであれば、出身校の高等学校の担任の先生は、そのことを把握している可能性が高い。入学後に、正しく学生のサポートをするためにも、そういった観点から高校の先生と連携を取ることを検討してはどうか。

以上

学校関係者評価委員（敬称略）

委員長	菅野 修（東京デザイナー学院 学校長）
副委員長	竹田 卓司（東京デザイナー学院 学務責任者）
委員	藤原 亮二（有限会社藤原アイアンクラフト）
委員	佐々木龍郎（東京建築士会 / 業界団体等）
委員	宮内 舞（公益財団法人 画像情報教育振興協会）
事務局担当	有賀 史彦（東京デザイナー学院）